科学暦
宇宙語
瓦版
第四号
科学暦五年四月二十日
発行人　角辻　豊

60G0S0N
5T04.20

科学暦・宇宙語普及協会
5周年記念号

ホット・ジュピター
（太陽系外の惑星）本文は七頁

ＨＤ２０９４５８をめぐるホット・ジュピター。
木星の0.69倍の質量を持つ巨大ガス惑星で、中心星から0.045天文単位のところを3.5日の周期でまわっている。表面温度は摂氏1000度を超える灼熱世界で、深い青色と考える研究者もいる。また、常に同じ面が中心星に向いていて、熱せられることにより、中心星の光の当たる面から影の面に向けて猛烈な風が吹き、このような縞模様が現れると考えられている。（CG想像図／NHK）「異形の惑星」NHKブックス より

特集　科学暦・宇宙語普及協会5周年記念座談会　一～六ページ
ホット・ジュピター（太陽系外惑星）　七ページ
すばる会　八ページ
総会報告・予告　八ページ

科学暦・宇宙語に関する座談会

出席者　北村弘江・原田憲一
中村允人・中村富美子
角辻克子・角辻　豊
科学暦五年三月十一日
中村邸にて

原田：あのね、僕はまず、もうあの、科学暦はね、言うこと無いんですけどね。
中村（允）：ああそうですか。
原田：宇宙語ね、これどこまで一体やるつもりなんか、先ずこの概念と言うんかね、つまりこう言うものなんだと定義するのに終わるのか、実際にその～辞書を作るんか。
角辻（豊）：作ってますよ。
原田：えっ？
角辻（豊）：もう、ぼちぼち出来てますよ。インターネット見てもろたら。
原田：どのくらい入ってますんか知らんけどね。
角辻（豊）：えー、150ぐらいは入ってる。100語ぐらいかな。
中村（允）：そんなもんは辞書とは言わん。
原田：宇宙と言う、へえー。
角辻（豊）：千里の道も一歩から。
中村（富）：辞書の原稿が出来てます、なら判るけど。
角辻（豊）：そう、原稿が出来てます。
原田：一ヶ国語では駄目でしょう。少なくとも十ヶ国語とか。
角辻（豊）：無論、十カ国語以上です。
中村（允）：その一つの言葉について何カ国語も出来ているというの。
角辻（豊）：延べ150語ぐらいです。（笑い）
原田：その形式と言うのは、見出し語が宇宙語であって、あの、こっち側は、訳は日本語なんですか。
角辻（豊）：日本語は入っているのもいないのもあります。では現実を見てもらいましょう。
（ここで中村顧問氏宅の電脳（コンピュータ）の前に座を移し、電網（インターネット）を開き「Sci-cal.org」を呼び出す。宇宙語辞典を提示しその一部を5部印刷し出席者全員に配布する）
（この間約10分を要しました）
2頁参照

「アルファベットは表音文字？」

角辻（豊）：今のご質問は実際のページを見てもらわんと解からないと思いますので。
（三頁上段参照）
原田：これね、文字、これ見出し語ですね。これはどう言う配列になっているのですか。
角辻（豊）：今、たまたま「B」のところが出ていますが、要するにABC順です。
原田：いや、それだったらね、例えば「G」と言うのはね、グに発音するのと、ジに発音するのとあるので、どっちになるのですか。
角辻（豊）：それはもう決定的にグに発音するのに決めてしまっています。
原田：決めてしまうの？
角辻（豊）：他は認めない。二重も三重もみとめたらややこしい。
原田：ジェネラルと言う場合にはどないなるの。
角辻（豊）：ジェネラルはＪです。Jeneral で出てきます。Ceneral なら、ゲネラル　としか読めないことにしています。但し、「R」と「L」との差は日本語のカタカ

宇宙語辞典(科学暦 5.3.22 改訂)

宇宙語	U	原語文字	言語番号	ラテン語	記入日
原語	国語名	原語(共通語)	地域名(原語)	連想語	記入者
Ucu:go	U	Orijnar leta	Wa:d Na.	Laten	Wen
Orijnar Wa:d	Langyuejj Neim	Komon Wa:d	Rejon	association	H:

宇宙語と、原語の上下を左2列のみ入れ替えたものを自動的に入力し、原語も見出し語とする。

宇宙語辞典

bagr	U	バグる		errare	5.3.22.
baguru	JP	machigaeru	Temp.		SMITXJ Nobor

ナでは区別できません。

原田: はぁー　Ｊで出てくる。では、そこに出てくるのは、発音ですね。

角辻（豊）:そうです。ですからアルファベットをあくまで表音文字として利用する、と言うのが宇宙語の立場の根幹なのです。

「ミュンヘン・ムーニック・・・。それに、方言は？」

角辻（豊）:で皆さん、これを見てください(3頁参照)。これはたまたま「B」の所なんですけどね。「B」は実は2ページにわたっていると思いますが、一部だけを一つの言葉(宇宙語)に対して、それの原語、どこの国、どこの方言、地域の欄もありますが、それは一部印刷の設定でカットされていますが、注釈が要るのは2行目、地域(オリジナル)です。オリジナルの地域名と一般的に通用している名前とが違う場合があるのでこの欄が必要なのです。例えば、ドイツの「ミュンヘン」やったら英語では「ムーニック」とか言うのがあるでしょう。なかなか、これ難しいんですよ。この辺も皆で考えてほしいんですけど。それから、ラテン語。

原田:今おっしゃったのはね。あのーミュンヘンの人はね、ムーニックなんて言いませんわね。だから、オリジナルて言うのはその土地の名前ですね。

角辻（豊）:仰るとおりこの場合は、地名なんです。この場合は。

原田:それ以外は、その国によって皆自分流の読み方をするでしょう。特にヨーロッパはそうですわ。

角辻（豊）:そうです。だからそれ全部を並べるんです。

角辻（豊）:例えば6番を見てください。beij r これは標準語では「話す」ですわね。東北弁です。

中村（允）:何で「弁じる」が東北弁なんですか。「弁じる」は我々でも「一席弁じます」と言いますよ。

角辻（豊）:「一席弁じる」の「弁じる」ではなくて、普通に「話す」、と言う意味で東北地方では使われるので、少し標準語の使い方とは差があるのではないか。

中村（允）:いや、「弁じます」、は普通に使うと思うが・・・・。

角辻（豊）:改まった感じでは無く使うのが東北の方言、の感じなんですが、それまでを方言と言うかどうかには確かに議論の余地があるでしょうね。

中村（允）:俺がこれが気に入らないのは、地域と言うところに東北と言うのが入っているのが、弁じると言う言葉が東北だけでしか使われないように聞こえる。

角辻（豊）:ああ、いや、そうじゃない。東北では普通に「話す」と言う言葉を「弁じる」と言う、と言う意味で方言だと。

北村（弘）:それやったら、二つにしたら良い。弁じる1、と、弁じる2。二つ無かったらね、言葉としても、方言としても成り立たないのではないか、と思います。

角辻（豊）:それはそうですね。もう一項目立てて、「弁じる」に方言ではない「弁じる」、も作るべきと言う主張は当然と思います。

北村（弘）:では次に、bb 9番 Kyout o は。京都のぶぶ、言うのは、京都しかしゃべれへん。京都から出てきた言葉、言うことですか。

角辻（豊）:そう、京都で使う言葉。これね bubu はね、u いらんねん。これ間違うてます。Kyout o は、Kyout o でも Kyout o と言うから、同じなのです。ところが、JAPAN は現地、つまり日本では皆「Ni ppon」または「Ni hon」としか言いません。事実「Japanese」（宇宙語では Japani:z）はありますが、「ジャパン語」と言う言葉はこの世に存在しないのです。その癖に平気で「欧米語」等と言っています。

これが「地域(オリジナル)」の欄の必要性なのです。

中村（允）:そんなら、あんた、この

宇宙語検索

A B C D E F G H I J K L M N O P Q R S T U V W X Y Z

No.	宇宙語	原語	国	方言
	地域（オリジナル）	意味（ラテン語）	意味（英語）	
1	bagr	macigaeru, machigaeru	Jp	Temp.
			make a mistake	
2	bank	banque	Frans	
			bank	
3	banka	banca	It	
			bank	
4	banko	banco	Sp	
			bank	
5	barisan	jyushin-yoshi	Jp	Temp.
			good recieving	
6	benjr	hanasu	Jp	Touhaku
	Touhoku		speak	
7	bilong	belong	TP	
		ex	of	
8	blad	blood	En	
			blood	
9	bub	ochya	Jp	kyouto
	kyouto			
10	by(u)	byu	Jp	
11	byon	...deshyou	Jp	akita
	Akita		may be good	

日本のところの地域（オリジナル）には、本来NIHONあるいは NIPPONと書くべきだと思っているのですか。

角辻（豊）：その通り。この欄の意味はそう言う意味です。

中村（允）：そんなん必要かなぁ・・・・。

（註　前頁表に意見採用）

（この後、上のミュンヘン、ムーニックの話と同様の確認あり。）

北村（弘）：そんなら、地名に関しては、世界中で言い方が違ったら全部のせないかんことになる。これ、具合悪いわ。いらんのちゃう。

角辻（豊）：その点は確かに悩ましい。だけどね、オリジナルの地名だけ書くとね、世界中の人に判らないと言う問題も出てくるのです。例えば日本はね、NIHON と書いたら世界の人には判らないでしょう。

北村（弘）：だけどそれはね、例えば日本のことを調べたり、日本人に聞いたり、そっからはいっていったらいい。入り口はわかりますやん。だけどね、全部は書けないわ。

角辻（豊）：勿論全部は書けない。だから、その辺も問題はある。何語で書くか。

北村（弘）：だって山の名前かてね、中国でエベレストをチョモランマと言うように。

角辻（豊）：それ全部入れたらええんですよ。

角辻（克）：チョモランマとか、エベレストとか。

北村（弘）：それ、そう書いたらね、方言とそれとがね、一致しないことは無いわけやからね、ここで方言で書いてあったら、ここ抜いてあってもかまへんことになる。

角辻（豊）：いや、これは方言の地域の名前がその地方で一般的に呼ばれている名前と、その地方以外の地域で一般的に呼ばれている名前とに違いがある場合のために設けた欄なのです。

北村(弘)：中国なんかどないしまんねん。ようけいっぱい民族があってやで、こっちとこっちの方では全然違う発音で、同じ地名とも判らないでしょう。

角辻（豊）：だから、それを全部入れるんです。見出し語に。それを見て、あ、これは上海ではこう言うんだな、と判るわけです。

原田：あのねこの、方言、と書いてあるのは、この言葉が使われている、どこの言葉か、とそういう意味ですね。

角辻（豊）：そうです。この方言の欄は世界中で一般的に使われている英語で書くのです。

原田：英語が、皆ヨーロッパの土地の名前を間違って言ってる、それを書くのですね。

角辻（豊）：そう、英語が席巻している。今のところ、それが一番判り易いので

はないか、と言うことです。
中村（允）：ヨーロッパの人間、怒るやろな。
角辻（豊）：いや、怒るでしょうね。まあ、ここまでの所合点していただきましたか。
北村（弘）：ややこしい。でもムーニックを載せとけば、それをこの辞書で引けば判りますやん。そしたら、ここに書かなくても良いんではないですか。
角辻（豊）：うーん、そうかな。でも書いてやっても悪くないんでは。
北村（弘）：ややこしい、余計に。これ親切かなあ。
（以下、欄の設定についての、誤解を招きやすいとの議論あり、改良することと、記載した人の名前と日時を書き込む欄の新設が提案された。更に逆引きの利便性も話題になった。）

大激論！【意味って何や】

中村（允）：次に「意味」て何や。
角辻（豊）：これは、英語の訳、と言う意味です。
中村（允）：ラテン語ではどう言うか、英語ではどう言うか、と言う意味やな。
原田：これ英語と書いといたほうが誤解されない、と言う意味ですか。
角辻（豊）：例えば2番目の原田さんのお好きなフランス語でbankね、これはFRANSと書いてあるでしょう。
北村（弘）：宇宙語や。
原田：このFRANSと言うのはFRANCEでしょう。
角辻（豊）：あ、そうですね。（実は2行上の北村（弘）さんのご発言が正しく、宇宙語ではFRANSなのです。角辻（豊）はうっかり原田さんに同意していますが）
中村（允）：このラテン語と書いてあるのはどう言う意味や。
角辻（克）：意味じゃなくてラテン語訳、と書けば良いのでしょ。
角辻（豊）：単にラテン語ではどう言う意味か、と言うことです。特別扱いしている、要するに。
中村（允）：TEMPて何や。
角辻（豊）：これはね、temporaryやったと思う、確か。
角辻（克）：1番のbagrこれ何。
角辻（豊）：バグる。
原田：これは日本語でっか。
角辻（豊）：ある人たちが使っている言葉です。電脳屋さんが使う言葉です。
中村（允）：ああ、バグね。
角辻（克）：ああそうか。あんまり一般的じゃないね。
角辻（豊）：そうですよ。変な言葉ばっかり入れてます。そのほうが値打ちあるでしょ。5番目のbarisanこれ判れへんでしょ。
北村（弘）：バリサン、何か3割。
角辻（豊）：「受信良し」、受信状態が良い、と言う意味。ある一群の人、つまりTEMPが使っている。Good receiving。これはね、携帯電話持ってる人は判るはず。つまり画面上にバリバリとアンテナが3本立っているのが見える、の意味で、良い受信環境を示す言葉なのです。
中村（允）：ああ、あれか。あれがバリサンか。うちのはそれは無い。充電状態しか示さない。もうすぐ博物館行きですわ。
角辻（豊）：今ね、もうバリ5まであります。

「電脳辞書は百年で完成？」

中村（允）：そんなもんやってたらな、100万年かかっても出来へんで。
角辻（豊）：100万年は絶対かからない。僕は、これはね、100年で出来ると思う。
中村（允）：できるかなぁ。100年かかるでもええわ。
原田：100年かかったらもう通用しないようになるのでは。
角辻（豊）：それでも良い。古語として、文化遺産として残せば良い。
原田：だから、半分ぐらいが残って、後の半分は追加していかないと。だから100年と言うのはどう言う意味かと。
角辻（豊）：その時の言葉に追いつくのに100年、と言う意味です。
北村（弘）：これ入れるのはね、かたちが出来てきて、ずっとコンピュータの整備が出来てきたら世界中の誰でもがアクセス出来るから、知名度が出てきたら早いと思う。
角辻（豊）：そう、残念ながら今まで書き込んでくださった方は世界中に私以外一人もいない。
北村（弘）：これをね、間違って入れたのはどうすんの。
角辻（豊）：それはね、編集と言う機能があって、いまのところ私しか出来ないようになっている。
北村（弘）：ああ、そうやろな。ここ一つ入れたら勝手にずっと入るようにしたら。
角辻（豊）：カーソルは自動的に次に動くようになってるけど、英語やラテン語訳を自動的に入れるようにするのは今のところ無理ですわ。ただ、前に入れた項目の例えば次も日本語なら同じ欄に同じことは打ち込まなくても良いようには出来ています。英語かラテン語のどっちかを入れたら他方が出るように位は将来できる可能性はある。
原田：バグる、なんてラテン語の時代には無い。

角辻（克）,中村（允）:ラテン語には無いね。（笑い）

「再び宇宙語の宇宙遊泳！」

中村（允）:あのな、2.3.4、バンク、バンコ、・・・これ皆同じ銀行と言う意味やな。英語、フランス語・・・と言うわけ。

角辻（豊）:そうです。で今度逆からも引けるようにしようと考え中です。英語のbankは宇宙語ではどう書くか、が判るようにする。

角辻（克）:この2.3.4の地域の欄に何も書いていないのは。

角辻（豊）:それは、方言と違うから書いてないだけです。

北村（弘）:まだこれ、同じ発音で意味の違うの入ってないね。

角辻（豊）:そうです。それはそれで、ダァーッと入れたら面白いでしょう。今までの辞書は分厚さその他で限定性があったのですが、電脳辞書の強さは少々の項目を入れても大丈夫なところです。だから、僕が思っているのは色々な単語の変化形があるしょう。あんなん全部そのまま入れるんです。動詞の変化なんかが良い例です。辞書の場合は省略しています。原則を巻末に書いたりしているだけで。だからある程度基礎知識がないと辞書も引けない。だから、語学は(実は語芸なんですが)難しい、ことになってしもたわけです。英語なら単にｓが付いただけの複数形も全部見出し語に入れても良い。そのほうが何の知識もなくただアルファベットの発音原則とその並び順を知っているだけの人でも利用できる。つまり宇宙人にも親切となります。

角辻（克）:大変なことやわ。

角辻（豊）:勿論大変なことですが、有限です。決して無限ではない。最新の電脳の能力に比べたら不可能なことだとは考えられない。新しい言葉もどんどん追加すればよろしい。皆が書き込んでくれるようになりだしたらしめたものです。

北村（弘）:あの歌が皆で歌えるようになったら、これも出来上がる。（笑い）

中村（允）:この7番の　TP　てなんや。

角辻（豊）:なんやったかなぁ。えーと、覚えてませんわ。何か意味あったはずですが。（後でtempと判明）

北村（弘）:ここで、こんだけあると言うことは、いろいろありますね。これの校正せなあかん。（笑い）　壮大な事業やな。

角辻（豊）:10番、これ何書いてるんやろね、よう自分でも判らん。

中村（允）:これ何て読むの。

（口々に）:ブユ、

角辻（豊）:あ、これ蚋のことや、これ、だから原語のとこが間違っている。

角辻（克）:虫。

角辻（豊）:そう、虫のことやと思いますよ。

原田:buyu言うたら「武勇伝」の武勇(buyuu)とは違うんですか。

角辻（豊）:違います。（ここで、欧米語でははっきりしないが、日本語でははっきりしした違いがある「長母音と短母音の差について」一言あるべきでした。「Oban, Koban」では日本語では、「おばん、小判」、ですが母音の長短に無頓着な最近の日本のローマ字では、「大判、交番」にもなります。事実、最近随所に「KOBAN」と交番に大きな字で書いてあり、皮肉屋の私には「さすがに日本は大判小判のジパング」だなと思えたりしています。大判のほうは山ほど闊歩しておられますし。）

中村（允）:その次もよう判らん。ブヨン、ビョン。

角辻（豊）:これは、「・・・ビョン」、「・・・でしょう」、の秋田方言です。（ブヨンならbuyonと書く。）さる、秋田弁がようけ出てくる新聞小説(神戸新聞、科学暦3年頃)に出てたんですわ。

北村（弘）:ブイヨンとは違うやん。

原田:この日本の秋田の方言取り入れるぐらい外国の方言いれてたら、たいへんですね。

角辻（克）:なんか、英語が一番判り易かったりして。May be good

中村（允）:ちゃうなぁ。ちょっとちゃうで。

原田:フランス語やったら　ネスパ(n'est pas)

北村（弘）:　may be で終わるやろから。

中村（允）:普通わな。May be やろ。

角辻（克）:もっと、ほかのん全部刷り出したら一杯訂正箇所が出そう。

中村（允）:一杯あちこちで、何か言われるで。（笑い）

原田:英語でも、isn't it とか言いませんか。

北村（弘）:そうそう、・・・でしょう、の感じで。

角辻（豊）:では、皆さんの意見として、この配置は判り難い、配置を改めます。

中村（允）:意味と言う言葉も絶対に換えたほうが良い。

北村（弘）：ラテン語、英語、で良い。
北村（弘）：宇宙語の下に例えば日本語が来たほうが良い。
角辻（豊）：デザインをね、大分変えないかん。折っているだけで、上下が関係ないのは良くない。
北村（弘）：原語て言うのも、ややこしい言葉やな。
原田：原語と言うのは一部は標準語に言い換えてあるでしょ。ところがそのままのもある。
角辻（豊）：確かに、これはおかしいですね。
中村（允）：意味は違うで。
角辻（豊）：原語はね、例えば日本語なら漢字仮名交じりで書かないかんのですわ。でもそれが出来ないからローマ字にしている。
北村（弘）：でも、その下はそのまま、その国のスペルになっている。
角辻（豊）：そうです、日本語はやむを得ずローマ字表記になるわけです。
北村（弘）：そんなら、bagl（bagr）はそのまま 原語欄に baguru と書くべきでは。
中村（允）：むつかしいな。
角辻（克）：この表題の付けかたやね。原語て言うたらね、何かあの・・・。
原田：バンクのフランス語やイタリア語はこれで良いんですよ。
北村（弘）：これほなね、日本語でそのまま書いたらわ。
角辻（豊）：それはあきまへんねん。インターネット（電網）に乗らない。そらね、乗るんやったら全部万国発音記号でやりますよ。だから、これは、次善、三善の策なのです。アルファベットをあくまでも表音文字として使う、が宇宙語表記の基本原則です。今の原語では辞書を引きにくいのを何とかしよう、と言う意味ですよ、要は。
原田：バグル、は日本語で若者が使うでわかりますが、もしイタリー語で同じようなことがあると、説明せんとね、誰も意味が判らなくなりませんか。
角辻（豊）：英語で make a mistake で判りますから。
原田：いやいや、ここの原語の欄で。
角辻（豊）：make a mistake に匹敵するイタリア語を書くことになりますね。
原田：イタリア人にも判らんイタリア語が出てきたら、ここで説明せなあかんわけですね。
角辻（豊）：説明はね。絶対しない。
原田：だけど、日本語で nachigaeru（nacgaer）と説明してるじゃないですか。ここで baguru とこの欄は書くべきではないですか。
角辻（豊）：なるほど、それは、仰るとおり、これはそう書くべきですね。一寸これは、統一性を欠いていけない。
角辻（克）：ほんなら、これは、もう消さないかんね。nachigaeru とこの欄に入れて。
北村（弘）：ほんなら、これ、英語でも意味を書いている。
角辻（豊）：同じことを英語圏の人で何か言うてるとしたら、それを書くべきです。

「連想の定量的な集積によって意味が発生する！」

中村（富）：皆がいろんな国の人がお互いに判り易くなるように、と言うたはるけれども、例えば、その何か言うた、それを誰かが聞いた、でもそのイメージが全然違う場合がある。そういうことと、初めから判らない、と思ったら用心してしゃべる。ボディランゲージを使って用心してしゃべる。それとどっちが益と害とがあるかの問題も考慮すべき、と思うが。
角辻（豊）：そら当然のことです。判ったつもりでもね、違うことを思う場合は多々ある。
中村（富）：共通語だからと言って、あ判っているとイージーにしゃべる恐れがあるので、気を付けてしゃべらないと。
角辻（豊）：そこがまた面白いとこで、大体、言葉と言うものはものすごく面白い。言葉の意味について考えると、意味は連想ですよ、連想の定量的な集積によって意味が発生する、一つのものだけでは意味をなさない。
北村（弘）：少なくともね、一寸でも判ると思ったらね、寄って行って話そうとするからね、最初から相手を殺そうとはしない。それだけは避けられると思う。
角辻（豊）：なるほど。
中村（富）：弘江さんはそう思う。私は全然判らなくても平気で寄って行く人やから、そう言う心配はない。
中村（允）：お前すぐ殺されるわ。
角辻（豊）：富美子さんみたいに、ニコニコ笑って近づいたら絶対に殺されへん。表情によるでしょう。中村さんやったら危ない。（笑い）
北村（弘）：近づいて行ったら、向こうがビビルで。（笑い）
中村（富）：本当にわからへん時やったら、大阪弁で一喝したらすぐ逃げる。
角辻（豊）：そうそう、
（以下、感情の伝え方の話になり、絵と字の話し等、少し主題から外れて終了）

系外惑星の発見！「ホット・ジュピター」

会長　角辻　豊

一ページ写真は、彗星でも隕石の落下でも人工衛星の打ち上げ失敗でもありません。

最近判ったホット・ジュピター（暑い木星）の想像図です。一体何ものか。実は太陽系以外にある惑星（勿論、銀河系内）の一番多い（現在発見されているものとしては）典型例なのです。

暑い、のは太陽系にたとえれば、恒星（主星であり、核反応によって自身が光っている）から水星の軌道くらいの近くを回っているからで、木星、と言うのは太陽系の木星くらいの大きさだからです。

主星に近いので、主星側の半球は何千度、反対側は氷点下、となっているでしょう。（自転周期が公転周期と一致しているお月さんと同様とし大気の動きが無いとすればですが。）

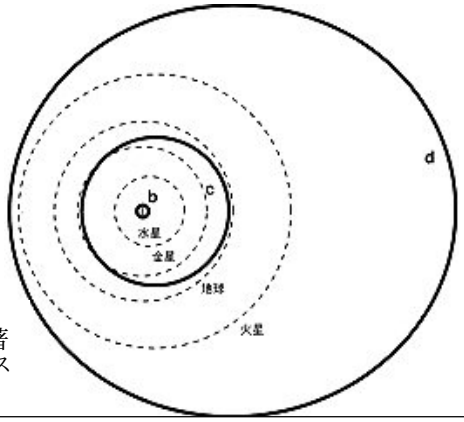
この光っているのは、主星側の灼熱状態を表しています。同時にそちらからの、いわゆる太陽風（主星からの強い帯電粒子）によって、大気が反対側に吹き飛ばされている様子もうかがえます。

太陽系外の惑星の発見にまつわる涙ぐましい先人の努力と挫折は、主に二人の天文学者に帰せられます。何と、この二人が30～40年間探し続けた結果相次いで亡くなり、しかも「どうしても見つからないので、太陽系外には惑星は無いのではないか」、と遺言のような論文を書いた、その半年後から、待っていたかのようにこの「ホット・ジュピター」が見つかり出し、今や何十個、いや百個以上確認されています。しかも最初の発見者は上の二人のように系外惑星を見つけようとしていた人、ではなかったのです。

何故こんな歴史の皮肉が起こったのか。その理由は簡単、太陽系と同様の惑星の分布を想定していたからなのです。まさか水星のように主星に近いところを木星のような大きな星が回っているなんて。しかし、事実は小説より稀なり、だったのです。更に皮肉なことに、最近では我々太陽系型の惑星分布に近いものも見つかりだしています。これはやはり観測技術の精度の飛躍的な上昇によるものです。

真夏の燦燦と輝く光の側から、すだれの向こうにいる美人を探すような難事（要するに眩しくて見えない）にいどんでいたら、突然、熊が出て来た、と言ったところでしょうか。

いずれにしろ、固定観念の恐ろしさと技術の進歩の素晴らしさ、に私は久し振りの感動と興奮を覚えました。そして宇宙語の普及が焦眉の急であると痛感しています。



「異形の惑星」
井田　茂　著
NHKブックス

アンドロメダ座ウプシロン星系：ひとつのホット・ジュピター（b）と2つのエキセントリック・プラネット（c・d）。波線は太陽系惑星の軌道。

会報に掲載の広告募集

次号に掲載いたします。
一頁の五分の一　５、０００円
十分の一　３、０００円
お申込は編集部まで。

広告で～す！

「幸せを運ぶ　家づくり」
神田　烈著　文芸社刊　税込１４７０円

家づくりをご計画の人の必読新刊書。手抜き工事にあわず、適正な価格で家をつくりたい。一生をかけた買物で絶対に後悔したくない。依頼先は有名ハウスメーカーにするか、地元の工務店にするか。悩みを解決するための一冊。

ご註文は、クロネコのブックサービス０１２０－２９－９６２５か、お近くの書店へ。ブックサービスのホームページでも買えます。

すばる会

副会長　江村和朗

私は豊中高校時代、気象天文クラブ（地球物理研究会、略して地研と称していた）に所属していて、1年先輩の角辻豊さんが、当時、部長をしておられたことは以前にもこの瓦版でご紹介した通りである。昨年夏、我々同期の者たちが角辻先輩をお迎えして懇親の時を持とうということになった。

我々の地研同期会の名称は「すばる会」という。

すばる（昴）とは星座の名前、正式にはおうし座にあるプレアデス星団、肉眼では6個見えるので漢字で六連星と書いて「むつらぼし」ともいう。6人だったのでこの名を取った。

まず、文藝春秋風にメンバーの紹介。F君：角辻さんの後を次いで部長になった。神戸大（工）計測工学を出て富士通入社、通信機を作っていたが定年後はケーブルテレビに携わる。M君：大市大（理工）地学を出て世界各地で石油発掘に従事、その後石油公団へ。この二人が現在東京在住。S君：京大（工）機械を出てヤンマーディーゼルへ。何故か今でも農機具関係でヨーロッパを飛び回っている。N君：関学大（経）から近畿信用銀行へ。同行のコンピューターシステムを開発した。今はボランティアで高齢者にパソコンを教えている。Y君：同じく関学大（経）からシャープへ。営業畑一筋、お客様をつれて豪華客船で世界一周したのが自慢。そして小生：阪大（理）化学からユニチカへ。当時の社名は大日本紡績であったが繊維は1本も作ったことがなく、化学プラントの操業に従事し続けた。

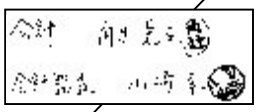
さて、時は科学暦4年7月31日（土）18時30分。場所は大阪梅田ニュートーキョー。我々が少し早めに来てビールを飲んでいるところに、角辻先輩が心臓手術を受ける日程を変更してかけつけて下さった。私以外は約48年ぶりの再会となったが全く違和感はない。たちどころに高校時代の雰囲気に戻った。

しかし、地研時代の思い出話は長続きしなかった。すぐに角辻先輩というよりも角辻会長の講義がはじまった。もちろん科学暦や宇宙語のこと。「すばる会」のテーマとしては誠にふさわしいものではあったが、後輩たちはただ「はあ」とか「そうですか」とか相槌をうつのが精一杯、質問の糸口さえもつかめない。無理に質問をした者もいたが、内容がトンチンカンになってしまってなかなか噛み合わない。それでも感銘を受けて何人か入会したらしい。数日たってS君から感想を述べたメールが届いた。曰く、「実に神秘的な会合でした。」

角辻会長のカリスマ性はどこに行っても消えることがない。

会計報告

（会計係　角辻克子）
（会計監査　山崎幸三）



会計報告 (01.05～05.03)			
収　入	内　訳	支　出	内　訳
1,411,400	会　費	157,245	総会費
44,000	寄　付	708,085	HP作製・更新代
122,500	総会参加費	10,000	瓦版作成費
		89,866	通信費・送料
		5,200	用紙代
		13,250	コピー代
		14,805	暦・宇の会印刷代
		10,000	音楽指導者謝礼
		20,000	資料代
		48,894	預金
		500,555	次期繰越金
1,577,900	合　計	1,577,900	合　計

科学暦4年度　総会報告

科学暦4年9月10日、大阪科学技術センターにて開催。出席会員17名。

角辻会長より、幹事会報告も含めた挨拶があり、その中で、判り易い科学暦概念図の説明がなされた。また、科学暦5年のカレンダーの披露があった。

次に、安積副会長による講話「暦と時刻」。時の記念日、年・月・週・一日それぞれの始まりにつき、噛み砕いた話あり。また、地震に関する興味深い解説があった。

あと、出席者それぞれが所感などを述べ、歓談のひと時。

会旗を崇め、会歌を斉唱し散会。

事務局長　坂口　敦厚

総会予告

科学暦5年9月16日（金）18時より。ＪＲ芦屋駅北側百ｍ。「大原集会所」にて開催の予定。

科学暦・宇宙語普及協会事務局
芦屋市奥池町二十二―一八
角辻総合人間科学研究所　気付
電話　〇七九七―三八―〇一二一

編集人
科学暦五年四月二十日
安積　聖夫